

昭和廿年七月拾參日

七一二

受信一〇五五五  
譯始一二一〇五

譯了二二三六

電電〇〇五五八〇〇三二

航作本機

急

九根

根

作

九根戰團概報着信監所

機密第一一八二五番電 二分ノ二三

九特根戰團概報第二七號

十一日〇八四三六六合計二一〇海夫本島東方及西方海面ヲ二隊

ニ分レ北方ヨリ南岸ニ向ケ侵入アランピントン及ロンガ飛行場ヲ

銃爆撃後北方ニ去ル

三〇〇二敵A二〇一Dニヨリナル機動部隊三四〇度一〇五新ニ

一發見セリ敵ハ附近海面ヲ游入シ一一〇飛行機收容後二九五度方向

ニ去ル  
三、以果被撃ナシ

四所見敵ハニコバル方面ノ策動ニ依リ我が航空兵力ヲ北ヌマトラニ

六六三八〇七

天ニBア六

一七五九〇

六二三五

吉川 (林)

0724

誘致シ航空機撃滅ヲ圖リタルモノト認ム。

七 一 二 受信 〇〇九六五〇 了 一〇三〇 電 〇〇五九八二 作 概 〇

昭和廿年七月拾參日



共 符

● 九〇三空△・三陸部隊△・掃三三・天草  
● 横領對潛哨戒部隊・大管P・横防隊P・三陸部隊山田派遣隊・?

機密第一一一八四三番電 二分ノ一二

發 九〇三空山田灣基地派遣隊指揮官

一〇五一〇零觀一機敵掃ノ南北五哩距岸 〇七三〇對潛掃蕩並ニ戰

果確認ノ爲發進昨日ノ攻撃地點 (敵掃ノ二〇度二一哩)ニ幅五〇米

長サ五〇〇〇米ニ及ブ油帶ノ先端幅五〇米長サ八〇米ヨリ尙油湧出

中ナルヲ認ム天草掃三三第四七號驅潛艇新利根丸第六號掃海特務艇

ヲ以テ敵掃ノ北方一〇哩圏内掃蕩中〇六〇五時着以後天候變化ノ爲實

施セズ

三 明十二日早朝ヨリ掃蕩攻撃並ニ第一雲洋丸直衛ノ豫定。

通 六六七二、六六〇六 天二Dケ一三 (B) 大通 西原、伊藤、谷

七 一二

受信開始 〇〇二四  
〇〇五二五

譯了 〇七〇〇

電 〇〇五七  
一〇九

航作 本概 〇

至 急



父根戰團概報着信艦所

母島警備隊

機密第一 一一一九〇五番電 二分ノ二

戰團概報 (七月十一日)

一 (A) P J 五 一 二六機 一 三九ヨリ 一二三〇ニ亘リ來襲北村沖村ニ銃撃後  
南方ニ退去

(B) P I 五 一 十三機 一二五〇ヨリ一時間侵入セシモ銃爆撃セスシテ南方  
ニ脱去

二 戰果 P I 五 一 撃墜二機 P I 五 一 撃破四機

三 被害 戦死二 (内一ハ機銃員) 輕傷二 (機銃員) 第七明神丸被彈五〇發  
航行ニ差支ナシ

四 發射彈數二十耗機銃一〇〇二十三耗機銃一八四

通六四六六、六五三四 呂一Bケ十三 (B) 横須賀 長谷川、日野原 (土)

昭和廿年七月拾貳日

五(イ)當隊P.1五一 二機墜後敵驅逐艦一隻二五〇度六〇紆附近ニ約一  
時間停止搜索ニ任ジセシモノト思ハル

(ロ)今朝來北上セシPB四ヤ一ニハ一三〇〇ヨリ一八三〇ニ亘リ二十三  
機本島周邊南下セリ。

七 一二 受信 ○四五四 譯了 一二二三 電自 ○八〇八 至 ○八〇八 一 昭和廿年七月拾參日 作概

作

横領部陸軍部戰術概報着信接所

密第一一九四五番電 四分ノ二三三四

横領戰術概報 (七月十日)

一、敵陸載機 F 六 F。四四 U。SB 二〇延約 一二〇〇機ハ十日〇五一〇ヨリ一六、百四甲八波ニ分レ關東地方ニ來襲セリ其ノ一・二・三・波約 三三〇機ハ〇五一〇ヨリ〇八〇〇間四波約 二〇〇機ハ〇八一ニヨリ〇九四〇間五波約 一二〇機ハ〇九五五ヨリ一二二〇間第六波約 一〇〇機ハ一一一七ヨリ一一五四間第七波約 三三〇機ハ一四〇〇ヨリ一五四六間第八波約 一二〇機ハ一六一〇ヨリ一六五四間九里濱廣島縣相模ヨリ逐次侵入南東地區(一部廣島縣)全境ニ亘

六六一五 六六二三 呂一Bケ十三 (四〇七五K) 横領 村山 (信崎)

六六一二 六六二四

リ行動主トシテ航空基地ヲ炸燬後概ネ一七一二迄ニ侵入ノ際ト  
同一經路ヲ經テ南方洋上ニ脫去セリ

三、交戰狀況 横領等三航空部隊ヲ撃テズ横須賀平塚厚木霞ヶ浦各地區  
所在地上砲火ヲ以テ之ヲ攻撃發射彈數高角砲(五八八)機銃(二七

四三)

三、戰果 (地上砲火) 撃墜十三機撃破十九機

四、被害

(中) 氣象塔丘 倉庫棟一棟等一空廠戰死二二重傷一〇高座廠雷電二

機被彈大破相模野空第一相模野空(格納庫四分ノ一破壊敵材用

飛行機二機燒失) 第二相模野空(准士官以上一重傷下士官二機

傷)

(同) 其ノ他輕微ナリ。

人

七  
一一一  
一一一  
受信開始 〇〇二四三

了 〇〇五一  
電 〇六一八一

昭和廿年七月拾參日  
作務 〇

緊急

先遣部隊

共符



機密第一一九五五番電

二〇二

先遣部隊綜合情報第一〇一號

二右 RDBハ三日前後「レイテ」ヲ出艦セルモノニシテ別ニ三日及六

日大島島南島島方面ヲ行動中ナリシ部隊アリ

三、臺灣東方海面〇八八八テムヤ三三輸送船一驅逐艦一〇九一五テムヤ

二三〇何レモ南下中ヲ發見セル外敵情ヲ得ズ

（電信課註 本電二分ノ一未着）

海六四五二 呂一Bケ十三（五二九五KG）六口放 戸田（岩崎）



ト

七一二 受信 〇〇六〇二〇〇 譯了 〇九五〇 電 〇五七七〇 作 概 〇

五二警備隊



千島防備部隊戰團概報着信艦所  
機密第一一二〇一〇番電

第二警備部隊戰團概報 第二十三號

武蔵地區七月十一日侵入狀況

一〇五四敵機B-I二四 一機高度一〇〇〇米ニテ二五〇度方向ヨリ侵入セントセシモ砲撃ニ依リ之ヲ一六〇度方向ニ避退セシメタリ

二戰果被害ナシ

三發射彈數十二纏高角砲二發二十五耗機銃一五發

四天候曇視界三〇〇〇米雲高一〇〇〇米

通六五二八 天二Bケ十三( B )大通 仲井(新井)

昭和廿年七月拾貳日

作

緊急

七 一〇 受信〇八〇〇 譯了 一一四〇 電〇五七七六 作稿〇

二五特根戰團概報着信艦所

機密第一二〇〇四二番電

二九警備隊戰團概報 十一日

一、テルオテ島北岸「スラマダハ」ニ突入シ敵ヲ北西部ニ擊退

ニテドレ島ノ一部ニ突入

三、一、一、一單發四陣地銃擊戰果被害ナシ

四、ルハ出港小型「二」(中一滿載)艦型不詳一針路北D一針路北入港小

型「一」(滿載)病院船「D」一碇泊艦艇「T」大型一二中「T」八小「T」四泊槽船

二病院船一工作船(D)一驅潛艇五敷設艦六海上トラツタ二〇大型上

陸用舟艇二二舟艇四三特設運送艦三〇九三〇ヨリ一〇〇迄魚雷艇

二西海岸哨戒テルナ一テ島ト連絡一三〇〇ヨリ約三〇分間「F」四「D」二灣

口附近偵察

不明。 口夕イ發進機針路北乃至西「T」七中型九訂一六ノ他通信連絡不良ノ爲

通六〇〇 呂一P三一八(六一二二三子EG)二三三 巧名小(空練)

昭和廿年七月拾貳日

作戰緊急

七二二

受信開始  
〇〇六二七五

譯了〇七四〇  
電〇五七二四

作概

七 艦 隊 P



日本海及朝鮮海峽方面船團（船舶）

機密第一二〇二二四番電

警報

一二日西日本方面ニ敵機動部隊來襲ノ算大ナリ。

通六六四四  
号B (九八三〇EC) 号二放  
山本 (波田野)

七一二 受信一二三〇〇 丁一三二五 電〇五八二七 作艦〇  
開始一二三〇〇 航本

昭和廿年七月拾陸日



父島根戰艦報告信艦所

父 通

機密第一二〇八二七番電

父島特根戰艦概報（七月十一日）

- 一、一四五ヨリ約三〇分間 P-15 十八機來襲夜明山通信隊谷電波探信儀及二見沿岸各所ヲ銃爆撃後更ニ母島ヲ空襲一三〇〇再度 P-15 十三機來襲飛行場附近ヲ銃爆撃一四三〇 P-16 一機侵入セルモ投彈セズ約三〇分間上空ヲ施回シテ去ル
- 二、戰果被害ナシ?
- 三、發射彈數二十五耗機銃彈一八二。

通六七五三 呂 B 六二二二 (B) 廣通 久保田 (金採)

七二二 受信一六四二 譯始一八四六 譯了一九五二 電〇五九四九 作 海



共符

○ 鎮守府・三、五、一〇各航空隊  
○ 第十特攻隊  
△ 支那方面艦隊  
▽ 一〇一航戰  
▽ 三一戰隊

○ 東京 通・大島防備隊

機密第一二二二一六番電 三分ノ二二三

發 G B 參謀長

通報 内地所在各部隊 大海參謀部 海軍省 憲政本部 航空本部

本土方面空襲激化ニ伴ヒ非常防空火器ニ依ル邀撃戰闘ハ益々其ノ要

大ナルモ有ルモ一面之ガ阻礙ハ極メテ進迫シアリテ更ニ必要ヲ要

スル實情ナリ大島防備隊防空砲臺ニ於テハ例ノ如キ準則ヲ設ケ彈藥

ノ節用ニ努メ七月十日來襲セル敵機P1四七三十數機中十機墜

見事ナル戰果ヲ收メタリ(使用彈藥高角砲四〇 二十五発消耗六

通六八九七 六八九八 天二Bケ十三(B) G E 口 仲美( )

昭和廿七年七月拾參日

- 一、各部隊ニ於テハ此ノ標準則チ設ケ彈藥ヲ常用スルトモニ最  
有効ナル射撃實施ニ努メラレ度
- 二、五耗機銃射撃實施距離チ一〇〇〇米以内ニ限定ス之ガ爲陣地ヲ  
可及的ニ要防護物ニ近接セシム
- 三、一機ニ對スル二十五耗機銃一門毎回ノ射撃彈數ヲ五發以内トス
- 三、向首シ來タル敵機ノミチ射撃シ側射又ハ追射ヲ禁ズ。



七一三

受信〇〇一七  
開始〇〇五〇

譯了〇七四〇 電〇六六八六

作概〇  
航本

至急

共符



● 横防戦  
● 東通・横鎮口・大湊通  
● 三陸部隊

機密第一二一三三〇番電 二分ノ一

發 三陸部隊指揮官

金華山部隊ノ報ニ依レバ小型哨戒機三陸沿岸ヲ哨戒偵察味方潜水艦搜索ノ情況ヨリ判断シ敵潛ヨリ發着ノ算アリ 尙敵潛伏在セル情況確實。

〔電信課註 本電二分ノ二未着〕

昭和十一年十月三日

通七一七 天二日ケ十三 (B) 横須賀イナ岡 (半) 澤

七  
一三  
信二三一〇  
始二三一〇

了 一四〇五

電 〇〇六  
六四六〇

作 概

昭和廿年七月拾四日

開 衆

天

符

195

千島防備部隊戦闘概報・北千島部隊

機密第一二一五一六番電 二分ノ一二

北千島防備部隊戦闘概報（七月十一日）

一、寒襲状況 ○五〇〇 一 24 六機（通信諜報）ノ中四機編隊ハ東方ヨリ

近接（一五〇）ヲテ電探捕（國端阿頼度加能及樺得撫島沖ヲ飛

機）〇七一〇武蔵摺鉢沖近接カゲノマ城入雲上ヨリ爆彈約二〇發投下

ノ後東進他ノ二機ハ各單機〇六〇〇及〇春四二夫々カゲノマ沖ヲ南

西進後湖山南方ニテ反轉東北方ニ避退セリ

三戰果カシ

通 六九七六  
七一一九

天三乙ケ四（四）七六〇）大通

咲花・馬場（海卷）

1



三、被害 海軍側ナシ

陸軍側負傷者二重軽傷各一 建物破壊二

四、島内<sup>1)</sup>風速四米視界一〇哩

五、敵爆撃機不規則ナル行動ヲトリ二時間半ニ亘リ執拗ナル空襲ヲ實施セル

ハ特異ノ状況ニシテ注意ヲ要ス。

昭和廿年七月拾參日

七  
一三  
受信開始 〇一五〇四  
譯了 〇一〇〇  
電 〇六〇二〇  
作 概

件

第三哨戒部隊指揮官  
海軍 總隊 中

機密第一二一五二五番電

通報 電測中隊長 横須賀警備隊司令官

七月十日 機動部隊關東方面來襲ニ際シ大吹塔見張所ハ激越上機第一  
波先頭ヲ一七〇軒ノ遠距離ニ於テ捕獲之ヲ保續シヨク小型機ナルヲ判  
別報告セルハ爾後敵情判斷ニ資スル所極メテ大ニシテ大ニ可ナリ

通七〇四二  
天二〇六十三 (B) 横須賀 大石 (渡田野)

ノ

七 一二 受信一九一三 譯了二二二二〇 電 〇〇六〇六八七  
譯始二一二〇〇 航作 本概〇

昭和廿年七月拾參日



吳、佐各鎮口。六、七各艦隊口。阪警口。吳防戰指揮官  
第二、三、五、六、十各突擊隊。三一戰隊

五 航 空 艦 隊 口

機密第一二一六二三番電 二分ノ二二

G B 電 令 第 八 十 三 號

佐鎮吳鎮聯合水上水中特攻圖上演習ヲ實施ス

右指導官ヲ吳鎮守府長官ニ指定吳鎮守府長官ハ左ノ外細目ヲ定メ演習ヲ主

宰スベシ

一 期 日 七 月 十 八 日 及 十 九 日

三 場 所 吳

通 六 九 四 四  
六 九 四 五

呂一Bケ一三 (B) (GF) 大内 (小幡) (一)

三 演習員參加範圍

佐鎮 吳鎮 阪警 六F 七F 二S Z 三S Z 五S Z 六S Z

一〇S Z 吳防備戰隊 第三十一戰隊

四 主ナル研究項目

(1) 四國九州地區ニ於ケル決號作戰ノ局地的研究

(2) 特攻兵力及防備兵力ノ配備及指揮運用法

(3) 特攻兵力ノ作戰要領

七一三 受信。一四五 譯了。一二二 電。六三七。作概。

作

海軍總隊日。大海空部。支那方面所隊日  
高警口海南警口。馬公特根。廈門特根。香港特根。

支艦隊日

機密第一二二六三。香電

東沙島馬公根據地隊員救空ニ關シ高警口御依頼ニ依リ高方  
ニ於テ戒免ヲ以テ再三實施セルモ成功セズ七月日馬根、指令ニ基  
キ施設破壊ノ上カソク一ヲ以テ生俘者一九名脱出四日碇石  
湾附近ニ漂着陸軍部隊ニ收容セラル判明セル情況左ノ如シ  
一月十五日空龍石共念及氣象観測施設潰滅爾後連日空龍石  
三月二十日敵艦一砲撃ヲ受テ指揮官戦死 六月二十九日朝敵  
艦一浮上近接小浮舟四ヲ以テ約一。上陸ヲ企テタル七一ヲ擊破  
且セ、右情況ヲ判断スルニ同島ハ既ニ敵手ニ渡リタルト認ム。  
通七十四八日(七月二十五日)上陸 橋本(中)

昭和廿年七月拾四日

七一二

受信二三四五  
開始二三四〇

譯了二三二五 電〇六〇六九

作概本〇

緊急



松山空基地

大和空

三、五各航空艦隊口・一二航戦P・吳鎮口  
美保空基地

機密第一二一六三二番電

大和空機密第一二一四五番電ニ依ル展開ヲ左ノ通改ム

一、松山空行七月十三日一六〇〇發一八四五着

二、柳井寺空行七月十四日〇四三〇發〇六〇〇着

通七〇二〇 呂一Bヶ十三( B ) 阪警 奥山(五島)

昭和廿一年七月拾參日

1002

人

七 一一三 受信 〇一〇三〇三 譯了 〇一四〇 電 〇六〇九〇九 災 病

至 急

二 氷川丸。高警

大海。二遣支隊隊員。佐鎮。舞鎮。七艦隊各  
海上護衛總部隊指揮官

機密第一二二一六五三番電

二分ノ一二

通報 第十方面軍參謀長。基隆、シヤカルタ、臺北各在勸武官  
G 電令第八四號

一 第二氷川丸ハ香港出港後基隆經由内地ニ歸投スベシ

二 基隆ニテ硫酸（キニ一ネ一二〇能）一五能陸軍用五能海軍用トシ

テ陸軍ヨリ護渡ノコトニ中央協定濟一ヲ揚搭スベシ青島臺灣ヨリ  
内地還送ノ患者ハ内地病院收容乘客少ニ雖も必要已ムヲ得ザルモ  
ノニ退定

四 佐世保ヨリ舞鶴へノ要輸送患者ヲキニ付現在入院患者及搭載物件  
佐世保揚陸ノ必要ナケレバ基隆ヨリ直接舞鶴へ回航スベシ

道六九九二、六九九六

天一五ケ十三（B）G E I

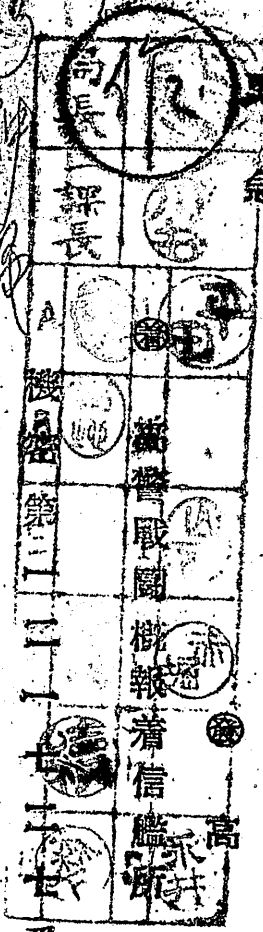
福山（吉井）

昭和廿年七月拾參日

1003

七  
一三  
開始〇〇四一五〇  
譯了〇五〇二  
電〇六〇八四  
航作  
本概〇

昭和廿年七月拾日



敵機状況 (十一日)

一〇八〇〇ヨリ一二五〇ノ間八機二四 二十一機五三五 四機PB  
 四機二機PB五機一機P五機一十八機P三三八 九機計五五機内B  
 四三四 二十一機ハ新竹B五三五 四機ハ台中地區ヲ爆撃他ハ本島  
 周邊警戒セル後退去セリ  
 三十二日〇一二〇ヨリ〇三一五ノ間大型一機高雄台南洋上ヲ哨戒セリ  
 三機被害 海軍側新竹基地一式陸攻三天山二炎上一式陸攻大破一天山小  
 破一 民間御家屋倒壊焼失四〇(新竹台中) 燈台中破一(基隆港)  
 其ノ他輕微

通七十七三 呂一B八四七〇五五〇 高雄 星野(猪狩)

1004



人

七 一 二 受信 二 〇 〇 五 〇 丁 二 一 一 五 電 〇 五 九 六 二 航作 〇 本

作戰特別緊急

仁 基 地

口夕敵情遠望機報着信機所

作

機密第一二一七五三番電

一七一五迄ニB1二九一二〇機大宮島ヨリ北方ニ移動。

通六九六五 トイト (五一二五KG) 四通 大塚 (猪狩)

昭和廿年七月拾参日

作戰特別緊急

七 一 二

受信二〇〇七  
開始二二〇七

譯了二三五〇

電 〇〇六〇三二  
〇六〇三三

作概 〇  
航本 〇

一 〇 方 面 艦 隊

1000

昭和廿年七月拾參日



新竹航空基地

二分ノ一、二

發 參 謀 長

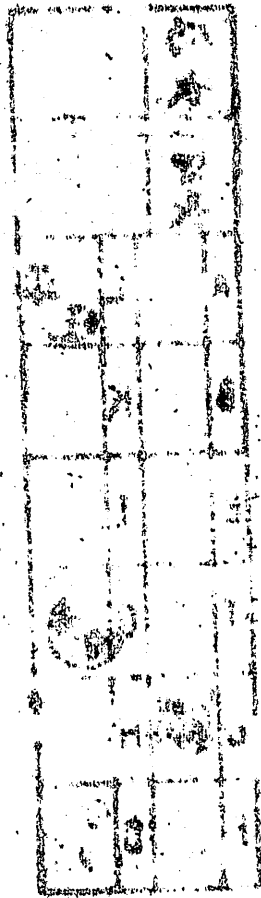
宛 東京中央  
内地連絡用トシテ  
月十一日ヨリ歸投ノ途次新竹ニ於テ被爆機失セリ  
急内地歸還ヲ要スベシ  
狀況等スナラバ第二十九航空戦隊保有中ノ一式陸攻又ハ九六式陸攻  
一機保轉方取置ハレ廢(空輸)現在新竹ニテ待機中ノ第十三航空戦  
道六九九六二六 呂一Bヲ十八(一七五九〇KG)十通 新陸(川崎)

宛 東京中央  
内地連絡用トシテ  
月十一日ヨリ歸投ノ途次新竹ニ於テ被爆機失セリ  
急内地歸還ヲ要スベシ  
狀況等スナラバ第二十九航空戦隊保有中ノ一式陸攻又ハ九六式陸攻  
一機保轉方取置ハレ廢(空輸)現在新竹ニテ待機中ノ第十三航空戦  
道六九九六二六 呂一Bヲ十八(一七五九〇KG)十通 新陸(川崎)

宛 東京中央  
内地連絡用トシテ  
月十一日ヨリ歸投ノ途次新竹ニ於テ被爆機失セリ  
急内地歸還ヲ要スベシ  
狀況等スナラバ第二十九航空戦隊保有中ノ一式陸攻又ハ九六式陸攻  
一機保轉方取置ハレ廢(空輸)現在新竹ニテ待機中ノ第十三航空戦  
道六九九六二六 呂一Bヲ十八(一七五九〇KG)十通 新陸(川崎)

宛 東京中央  
内地連絡用トシテ  
月十一日ヨリ歸投ノ途次新竹ニ於テ被爆機失セリ  
急内地歸還ヲ要スベシ  
狀況等スナラバ第二十九航空戦隊保有中ノ一式陸攻又ハ九六式陸攻  
一機保轉方取置ハレ廢(空輸)現在新竹ニテ待機中ノ第十三航空戦  
道六九九六二六 呂一Bヲ十八(一七五九〇KG)十通 新陸(川崎)

0749



像搭乗員赤管、右出來得ザル事信ナラバ  
 今一回一〇一航空戦隊便  
 設定方取計ハレ度

(H)



緊急

七一  
受信二〇九二五  
開始二〇一五

了二一一五

電〇五九六回

作機〇

共

符

1007

昭和廿年七月拾參日

南島島戰國概報着信艦所

機密第一二一八〇二番電

南島島守備部隊指揮官

戰國概報 (七月十二日)

一、P、B、Y一機一三〇ヨリ一三〇ヨリ約一・二〇〇米本島周

邊ヲ旋回偵察

二、敵潛一隻〇南〇〇ヨリ一六三七迄視界内ニ在リテ尾逐哨戒

三、發射彈數(發射機)八挺高角砲五(二挺二八)二十五発機銃六一

三戰果被害 ナシ。

通六九八 七一〇十三

(三九八五機) 七FGD

(阿 渡)

人

七

三

開始 〇〇三〇〇

了 〇一〇五

電 〇六一九三

作 概 〇

至 急

停

九〇一 空機派遣隊

九〇二 航空隊

海機隊 指揮官・一護衛隊隊長・銀隊隊長・七艦隊各隊長

機密第一二一八〇五番電

發 參謀

當發司令第七九號ニ左記追加セル

明江藤少佐元山派遣隊指揮官ヲ命ズ

一東海註

本電第七九〇一ニテ既記布 第七八號ナリ

通七〇四七 呂一ヨケ一三(三八五五) 銀通 竹内(岩崎)

昭和廿年七月拾參日

七 一三 受信〇二五〇 譯始一〇四五〇 譯了二二四五 電〇六三一八  
〇六三一八

昭和廿年七月拾四日  
謀通

南洋支那海方面特情着信繼所

機密第一二一八三七番電 二分ノ一二

通電先 威山

第十一特別根據部隊特種綜合情報

左ヲ綜合スルニ五航軍ハ逐次沖繩へ進出ノ算大ナリ

六敵側「ラチオ・ニュース」B一三五B一四四 一四五次チ二〇三B

一二六 五三其ノ他二一六 一日沖繩へ進出日本本土爆撃ヲ開始セ

リト

五七月一日「カムラン」ニテ撃墜セル俘虜ノ言ニ依レバ八月一日頃五

航軍ハ全部沖繩占領地進出ノ豫定ナリト

三七月五日以降五航軍系「ミンドロ」基地ノ通信極メテ不活潑ニシテ

同基地ヨリノ出撃見ズ。 通七二六三 通七一八九 呂一B々十二(六二三五) 十通 田(五) 高(

緊急

七二二受信 二二三〇八 譯了 〇二二〇〇 電自 〇〇六〇八二〇

作訓

昭和廿年七月拾參日

第七基地航空部隊戦術情報通信艦所

秘密第一二二二〇〇二番電 三分ノ一、二、三

機動部隊邀撃戦訓速報

一 情報迅速取得ノ手段ヲ確立

二 機材分散秘匿ハ狭体地區ニ拘泥スルコトナク廣範圍ニ分散隱蔽ニ

徹スルヲ要ス

三 四機ノ效果ハ大ナリ之ガ使用ニ當テハ四機ノ据附場所選定ヲ適良

ニシ地上火器ト關聯セシメ砲銃威力ノ發揮ニ努ムルト共ニ場所方

同ノ變換ヲ頻繁ニシ四機效果ノ持續ニ努ム

通 七〇八四  
七〇九一  
七〇九二

呂一Bケ十三(三九八五四)七FGB放

白原 岩田・咲花(小川)

口防空ヲ地上火器ニ依存スル狀況ニ於テハ一基地ニ對シテ少クモ六

〇大基地ニ在リテハ一〇〇以上ノ大型機銃ノ裝備ヲ要ス

尙地上火器ノ据附場所ヲ再檢討攻撃效果ノ發揚ニ遺算ナキヲ期スル

ト共ニ豫備陣地ヲ設置適時陣地ノ變換ヲ行フヲ要ス

五、煙幕防空、風防空、氣球ノ活用ニ努メ夥シキ戰訓ニ鑑ミ、今期展開ニ當リ

テハ通信情報取行ノ手段ノ完成ヲ期スルト共ニ之ガ完成迄敵情ノ變

化ニ應ジ機宜各基地指揮官ニ於テ警戒ヲ嚴ニシ機材ノ損耗防止ニ遺

慮ナキヲ期スルノ要アリ。



人

作

七  
一三 受信二三五二 譯了〇七三八 電〇六一八九 作  
一三 譯始〇五一三 本

千島防備部隊戰團標報着信處所

機密第一二二一〇三番電

第二警備部隊戰團標報第一四號 (武藏地區七月十二日)

一〇七二八敵機 一三四 四機 一三九 一機低空ニテ一三〇度方向

野田浦海岸方面ニ侵入一部南側四ツ岩弘前方ニ侵入偵察機

機下沿岸方向ニ避退セリ

三戰果被害ナシ

三發射彈數一二糧高角砲二發

四天候曇視界一五哩 雲高一〇〇〇米

通七二〇九 天二二ヶ一三 大通

不木 (梁目)

昭和廿年七月拾參日

人



七 一 三 緊急

受信 〇〇六六二四一七

了 〇八四五

電 〇〇六六二七五

作 〇

共

符

二五根戰團概報着信艦所

機密第一二二一〇七番電 二分ノ一二

二九警備隊戰團概報 十二日

一、本島西部ノ掃蕩「夕トマ」ニ於テ其ノ大半ヲ捕捉殲滅ス判明セル戰果人員殺傷約三〇〇名小銃彈藥多數押收被害負傷士官一兵三五六大部ハ白人ノ指揮スル舊蘭印兵ナリ

二、〇七四五單發二、一五四五單發三「バガク」海峽銃擊戰果被害ナシ  
三、タルハ出港小型「一」(滿載)針路北(〇八〇〇發)大型客船「一」(潛艇)進路東特殊潛航艇二「一」(驅逐艦)五針路北入港驅逐艦一海上トラ

通 七七二二八

呂一B「一」八(六一二二、五KC)二一通

星野(盧田)

(正)

昭和廿一年七月拾四日

1012

ツク一<sup>R</sup>大型上陸用舟艇一〇(一〇八〇〇以前)驅逐艦四<sup>R</sup>大型<sup>T</sup>二大型  
 上陸用舟艇六碇泊〇八〇〇<sup>T</sup>大型一一中型八小型三油槽船二工作船  
 一病院船二驅逐艦一一潛艇四魚雷艇八海上トラツク六<sup>R</sup>大型上陸用  
 舟艇三〇舟艇五曳船三<sup>R</sup>  
 四毛口夕イ發進機針路北乃至西大型九中型七計一六ノ他通信連絡不良  
 ノ爲不明

(2)

七 一三 受信

七 一三 受信  
譯始 〇〇三四

譯了 〇二〇〇 電 〇六〇三六

航作  
本〇

昭和廿年七月拾參日

緊 急

共 符



天航空部隊作戦命令着信處所

機密第一二二二二〇番電

通信電令作第二三六號

一、警戒配備中ニ於ケル飛行機待機（激撃戰團機隊ヲ除ク）ハ特令  
ナケレバ第一警戒配備ニアリテハ第二準備姿勢第二及第三警戒  
配備ニアリテハ訓練ノ爲特ニ役務ニ差支ナキモノノ外第二準備  
姿勢トス

二、警戒配備中激撃戰團機隊ノ待機ハ特令スル場合ノ外戰團隊司令  
官計定トス。

通七一一一 呂一四ケ十三（七八七五機）一KFGB 川本（來）

昭和二十七年七月廿六日

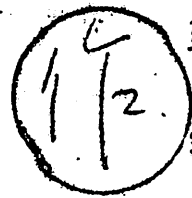
七 一 五 受信 〇〇二一八 譯了 〇九一〇 電 〇七三三七 作 〇

至 急

譯

共

符



三陸部隊掃蕩隊

東 通。横領口。大通。横防戦。釜石在勤武官。三陸部隊山田隊

機密第一三一〇二五番電 二分ノ一

三陸部隊電令作第三八號

(一) 一二〇〇ニ至ルモ敵情存ザレバ掃蕩ヲ止メ山田ニ歸投補給待機セヨ

(二) 山田ニ入港後掃蕩教育研究会(女川防備隊副長一八〇〇山田着加

ノ豫定)ヲ施行。

(電信課註 本電二分ノ二未着)

通八四〇二 天二〇分十三(横通) 中島(川口)

七 一 三 受信一八四〇五 譯了二一四五 電〇七一三 航作概本〇

至 急 舞 鎮 戶 佐 伯 空



海上護衛總部隊指揮官・大管口九〇三空  
吳鎮戶・吳防戰

機密第一三一二四六番電 二分ノ一

施 GEB電令作五一七號ニ依ル當隊磁探兵力大湊進出ハ左ニ依リ之ヲ實

一、指揮官分隊長 石田大尉  
二、飛行機隊 零水一二機 (内震電二)

七月十六日〇六〇〇佐伯發大浦一二二五〇新潟一二三四五

〔電信課註 本電二分ノ二未着〕

通七五一七 呂一Bヶ十三 (九八三〇KC) 佐二放 佐藤 (阿波)

昭和廿七年七月拾六日

1015

1940

人



七一四

受

始信

〇〇二〇〇  
九四五

了 一〇三六

電 〇〇六七  
一八九

作航侍

本

〇



北千島部隊戰國概報信艦所・千島防備部隊



無線艦所用共通符號

機密第一三一七五三番電 二分ノ二

北千島防備部隊戰國概報第九號

七月十二日來襲第一次〇六五三B一三五 四機國端ニテ發見超低空ニ

テ占守島及幌筵島東岸ヲ南下武藏上空旋回後〇七二〇弘前ニ爆彈投下

後東方ニ脱去

第二次〇八〇二B一二四 六機(通信探報)柏原灣東方八五浬ニテ捕

捉逐次近接マス川加熊別東方ヲ經テ北上〇八三七片岡飛行場附近ニ小

型爆彈(二〇呎)約三〇〇投下東方ニ遁走 戰果ナシ

通 七七二五  
七七二六

天四Bケ一三(B)大通

田中・大塚(小川)

1016

被害

海軍側戦死（軍需部一）重傷（北東空一軍需部一）

建物破壊士官舎一兵舎一（北東空）附属兵舎一糧食倉庫一「千セウ臺

一何レモ輕微

艦攻中破一機小破二機 車輛（北東空四千セウ臺一）中破 爆彈車二

小破 ドラム機四 二十五番二被弾

陸軍側重傷一名 天候曇 風速二米 視界二〇斤